

地域福祉活動計画策定委員会 第8回委員会 会議録

1. 日時 平成 26 年 9 月 30 日（火） 13:30-15:30
2. 場所 小諸市人権センター 大会議室
3. 参加委員等（13名）
中村委員長、山本副委員長、小川委員、相良委員、中山委員、西川委員、三島委員、村上委員、望月委員、福島委員、松本委員、坂本委員、小林アドバイザー
欠席委員等（4名）
竹中委員、田中委員、牧野委員、上野谷相談役
4. 内容
 - (1) 開会
 - (2) ここまで振り返りと今回の目的の確認…事務局より説明。
 - (3) 報告事項
 - ① 情報公開の状況…情報公開の状況を確認。
 - (4) 会議事項
 - ① 第2章について
 - ・ 『この5年間の目標について』…資料を基に検討。
 - ・ 本日の分科会について…事務局より説明。
 - ② 分科会…4分科会に分かれ、資料を基に意見交換。
 - ③ 各分科会の報告…各分会より本日の取り組みを報告。
 - (5) その他…アドバイザーよりコメント。
 - (6) 次回会議（第9回）…平成26年11月4日（火）13:30～場所は調整後、連絡。
 - (7) 閉会

議事要点

1. 開会

(委員長) 事務局よりこれまでの振り返りを。

(事務局) 前回の委員会では基本理念を決定いただいた。また各相談内容における数値目標についても議論いただいた。それを踏まえた事務局案を今回提示するので、議論頂きたい。なお、この地域福祉計画は市民協働の計画という位置づけであり、今回の事務局案で提示する目標値は住民の意識変化に視点を置いている。前回の委員会でも確認されているが、本委員会は事務局案を追認するためのものではないので、目標設定について委員会および分科会で十分に話し合っていたきたい。また、当初の予定では今回の策定委員会にて答申の予定であったが、あと2回の開催追加をお願いしたい。

(委員長) 委員会を2回追加開催することについてはいかがか。

(委員) 異議なし。

3. 報告事項

(1) 情報公開の状況

(委員長) (委員長) 事務局より報告を。

(事務局) 【9/2 コミュニティテレビの放映及び社協ホームページの掲載について報告】

4. 会議事項

(1) 第2章について

①5年間の目標について

(委員長) 事務局より説明を。

(事務局) 【相談を参考に事務局資料に基づいて説明】

(委員長) 前回、数値目標について様々な意見をいただいた。今回の議論に先立ち、アドバイザーより意見をいただきたい。

(アドバイザー) この活動計画は社協の事業計画ではなく、社協と住民の取り組み計画である。支えあい活動は社協を含めた地域の活動。市民・各種団体・行政などが参加するので、第2章の取り組み欄は『社協』と『私たち』が並列で書かれている。協働の取り組みに関する計画は事業計画に比べると数値化が難しい。今回の計画は「住民意識の支え合い意識の変化」が目的。住民にとってわかりやすい目標となっているのかどうかという視点が大切。

(委員) 各事例の数値目標を見てみると、アドバイザーの言わんとしていることがわかる。この数値目標を達成したとしても、支え合い意識が高まったとは言えないものが多い。

(委員) 一般的な計画は事業実績の積み重ねが中心となり、意識の変化まで見ることは少ない。意識変化が指標となる視点はユニークであり評価したい。

(委員) 社協の取り組みの中にある地区担当者の設置は大切なことだと感じる。区には高齢者クラブ、民生・児童委員、公民館など支え合いに関する組織がある。この状況で新しい組織を立ち上げる余力は地域にない。現状を維持しながら既存の組織を結びつけるコーディネートを期待している。

(委員) 区の中での支え合い意識の現状は。

(委員) 地区によってバラつきがある。区長の任期が1年間という区では、前例踏襲で精いっぱいという声がある。しかし、今年2月の大雪で支え合いについて考え直した区あると聞く。小さな区では、お互いの顔が見えており支え合い意識が高い。今後問題になるのは何かあっても区に頼ることができない区未加入の方々の支援。

(委員) 社協が地区担当者を配置し、区と協働で支え合い活動をすすめると言っても、区長がその必要性を感じていなければ、連携できない。

(副委員長) 支え合い活動の先進的な取り組みを行っている区をモデルとして取り上げたらどうか。5年後には今以上に高齢化が進み、支え合い活動は難しくなる。PTAなどを巻き込み、

取り組むべき。小諸市は地域福祉計画を作る予定はないと言っているが支え合い活動は社協と住民だけの取り組みではないはず。県内では地域福祉計画は小諸市と飯田市のみ未策定だと聞いた。

(委員) 地域福祉計画の策定は市町村にとって必須ではない。市の財政は潤沢とは言えない中、福祉を含むすべての行政施策の予算はメリハリをもって組み立てている。

(副委員長) 国の施策として、地域福祉計画の作成をすすめているのでは。

(委員) 地域福祉活動計画に行政は協力をしていく形で支え合い活動をすすめることが今、できることではないか。

(委員長) ここまでの議論を踏まえ、事務局よりコメントを。

(事務局) 支え合い活動に対する区の取り組みは均一ではない。「地域の支え合い活動を民生・児童委員だけが担っているのが大変」と社協に相談をいただくこともある。このような時に区長と民生・児童委員をつなぐ役割を社協の地区担当者が果たせればよい。支え合い活動をすすめるにあたり、社協が取り組む最初の一步は地区担当者の配置だと考えている。地区担当者が区とのつながりを作り、支え合い活動を組織化し福祉推進委員会が立ち上がると良い。支え合い活動の先駆的な取り組みを社会福祉大会にて紹介する予定。

(委員) 区役員も民生・児童委員もなり手がいない。月に1度の介護予防教室の継続すら危うい。このような時にこそ、区外からの支援を仰ぎたいので社協の地区担当者に期待している。

(委員) レイアウトについて確認したい。「社会福祉協議会は」という吹き出しが全ての事例に入っている。この部分について事務局の思いを聞きたい。

(事務局) 社協の事業は各事例と関連するものも多く、関連事業を羅列すると住民にとってはわかりにくくなってしまうので、社協の吹き出しは2つに絞った。

(委員長) ある程度議論を尽くしたと考える。以上を踏まえて、分科会で5年間の目標の議論に移りたい。

②本日の分科会について

(委員長) 本日の分科会について事務局から説明を。

(事務局) 【分科会資料の説明】

(2) 分科会…4分科会に分かれ、資料を基に意見交換。

(3) 各分科会の報告

(副委員長) 都合により委員長退席のため、規定に従い議長を代理する。分科会の報告を。

(第1分科会)

相談1 「私たちにもできそうなこと」の中に例示があるとイメージしやすい。

相談2 高齢者の持つ力を表現した方が良い。「ここがポイント」に表現できないか。

相談3 若い人が手に取りやすいように、前向きな表現を意識した方が良い。

(第2分科会)

相談4 「この5年間の目標」の中の「支援」の意味を検討した。目標に採用するアンケート項目は問11が適当。

相談5 十分に議論ができなかったので、10月20日に分科会を開催する。

(第3分科会)

相談6 数値目標とすべきアンケート項目が見当たらないため、数値目標にこだわらない表現を検討した。

相談7 体系図の目標と5年後の目標がリンクしていないので修正をしたい。

(第4分科会)

相談8、相談9 どちらの相談も支え合いの大切さを伝えたい内容。数値目標は必ずしも必要ない。

(副委員長) 目標のあり方について議論が深まったと感じている。

アドバイザーよりコメントを。

(アドバイザー) 各グループの議論から、以下の4点をポイントとして挙げる。

- ① 支え合いを基本に土台をどのように作るか。
- ② 関係づくりの具体性を。人と人、障がい者や子供をどのように巻き込むのか。
- ③ 想像できる目標設定を。目標が目に見えやすいような表現を。
- ④ 内でなく外へ発信できるように。活動計画の内部だけでなく、類縁の計画との連携を。

この4つの頭文字で『さ・か・そ・う』。夢を咲かせていく計画にしていきたいと思います。

(事務局) 次回日程は11/4(火) 午前9:30~としたい。

4. その他

(副委員長) 本日の会議を踏まえ、アドバイザーよりコメントを。

(アドバイザー) 各グループの議論から、以下の4点をポイントとして挙げる。

- ① 支え合いを基本に土台をどのように作るか。
- ② 関係づくりの具体性を。人と人、障がい者や子供をどのように巻き込むのか。
- ③ 想像できる目標設定を。目標が目に見えやすいような表現を。
- ④ 内でなく外へ発信できるように。活動計画の内部だけでなく、類縁の計画との連携を。

この4つの頭文字で『さ・か・そ・う』。夢を咲かせていく計画にしていきたいと思います。

5. 次回会議

(副委員長) 事務局案の提示を。

(事務局) 第9回策定員会を11月4日(火) 13時30分からと小諸市人権センターにて開催したい。

(副委員長) 異議なければ事務局案としたいがいかがか。

(委員) 異議なし。

(4) 閉会

(副委員長) 予定していた議事は以上。閉会とする。